

第19回独立行政法人農林漁業信用基金農業信用保険業務運営委員会 議事概要

1 日時及び場所

- (1) 日時 令和6年10月2日(水) 15時15分～17時10分
- (2) 場所 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー28階
独立行政法人 農林漁業信用基金 大会議室

2 出席者

- (1) 運営委員(出資者・学識経験者別 五十音順)
出資者:小島委員、蒲原委員、菅原委員、松谷委員
学識経験者:嶋崎委員、松村委員、水上委員、山本委員
- (2) 信用基金
牧元理事長、北副理事長、平山総括理事、平岡理事、山根理事
- (3) オブザーバー
宮田農林水産省経営局金融調整課課長
萩島財務省大臣官房政策金融課課長補佐

3 提出議案

- (1) 報告事項
 - ① 令和5年度の業務の実績に関する評価について
 - ② 令和5年度決算について
 - ③ 農業信用保険業務、林業信用保証業務及び漁業信用保険業務に関する業務方法書の変更について
 - ④ より望ましい保険料率体系の検討について
 - ⑤ 農業信用保証保険業務の概況分析について
- (2) 情報提供事項
 - ① 農業政策について
 - ② 委員からの情報提供
- (3) その他

4 議事経過の概要及びその結果

上記3(1)について信用基金から報告が行われた。その後、上記3(2)について、農林水産省及び各運営委員からの情報提供及び意見交換が行われた。

運営委員からの主な質問・意見は、以下のとおり。(カッコ内はこれに対する説明。)

【質問・意見等】

- (1) 報告事項
 - ① 令和5年度の業務の実績に関する評価について
 - スマート農業等の普及状況等に係る情報収集の状況や保険引受事例について説明して欲しい。
(基金協会とともに岩手県、石川県の生産者等との意見交換を実施し、導入費用や導入後の経営面での効果等について情報を収集した。当基金で実施したアンケートでは5年度末までに少なくとも4協会において7件の引受け事例があった。)
 - スマート農業に係る農業者の収支シミュレーションツールを見させてもらったが、分析に当たっては、決算書データだけではなく農業者からのヒアリングを行うことも有用だと思う。

- この収支シミュレーションツールが利用可能な品目は、現在、水稻、大豆、小麦の3つだが、今後拡大の予定はあるか。
(スマート農業のデータが最も充実しているのが水田農業なので、この3品目を対象にしているが、今後データが充実すれば他の品目にも展開できるかもしれない。)

- ② 令和5年度決算について
(質疑なし)

- ③ 農業信用保険業務、林業信用保証業務及び漁業信用保険業務に関する業務方法書の変更について
(質疑なし)

- ④ より望ましい保険料率体系の検討について

- 見直し検討の方向性として、担保の有無により保険料率に差を設けるとされていたが、その検討状況はどうか。
(事業・組織問題検討会の委員ともご相談し、整理してまいりたい。)

- ⑤ 農業信用保証保険業務の概況分析について
(質疑なし)

(2) 情報提供事項

- ① 農業政策について

- 農林水産省より、農林中金の投融资・資産運用に関する有識者検証会について情報提供があった。

- ② 委員からの情報提供

- 当法人は、令和3年に前経営者が亡くなり、自分が経営を引き継いだのだが、後継者への承継を見据えて2年間は大きい投資を控え、財務体質の強化に注力することで良い形で引き継ぐことができた。今後は、農作業の見える化、言語化に取り組み、人材育成を進めたいと考えている。

- 酪農については、1頭当たり生産費が前年比14%増加している。費用の半分以上を占める飼料代は15%増、水道光熱費も25%増と大幅に上昇しているが、乳価は9%しか上がっておらず、非常に厳しい経営状況にある。

- 当法人では、昨年に補助金を受けて冷蔵倉庫を新設した。これにより、春キャベツの出荷が夏頃まで行えるようになり、売上高も大幅に増加した一方で、生産費は、肥料費、農薬費及び燃料費のいずれも嵩んでおり、利益としては前年を下回ることとなった。

- 信用基金の出資金の国庫返納についてであるが、代位弁済が増加に転じている現状では、弁済能力はいくらあっても問題ないのではないかと。基金協会の経営にも影響することから、必要な支援策を講じられたい。

以上